

皆さんは、コミュニティ・スクールをご存じですか？

コミュニティ・スクール(以下CS)とは、保護者や地域住民が一定の権限を持って運営に参画する学校運営協議会を設置している学校のことをいいます。

学校運営協議会とは、これまでの『学校評議員会』に替わるもので、学校・職員・保護者・地域の方々が参加し、学校と地域の共通した目標を確かめ合い、同じ目標に向かってお互いが役割を分担しながら、様々な取り組みをおこなっていく協議会です。

大崎中学校は、平成28年度から県内でいち早くこの取り組みを始め、今年で3年目を迎えました。昨年度の主なCS活動として、夏休みの図書室を活用し、全学年を対象とした『学習支援教室』を開設したり、『職業人に学ぶ』と題し、ゲストティーチャーによる『仕事の魅力』についての講演会を開催するなど、精力的に活動しています。

今月号では、3年目を迎えた『大崎中CS』にスポットを当て、その取り組みや関わる人々の思いを特集します。

# 学校と地域の『架け橋』へ 『地域に開かれた学校』から『地域とともにある学校』へ



1 JTBによるツアープラン作成の様子 2 無線でLEDを点灯させ喜ぶ生徒と南竹氏 3 菜種油搾り体験をする生徒ら 4 写真講座でカメラを持ち撮影をおこなう様子 5 KOBA式トレーニングで体幹運動を教える竹田氏 6 そおりサイクルセンターによる環境学習の様子 7 富士屋製菓によるパッケージ作り体験の様子 8 南日本新聞による新聞の読み方・作り方講座 9 社会教育課長による手話講座の様子 10 DIY講座で完成したベンチを前に記念撮影 11 大脇氏による再生可能な料理教室